

「第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」に対する付帯意見（案）

北海道農業・農村振興審議会畜産部会 部会長 堂地 修

- 1 道は、本計画を関係者共有の目標として、その趣旨や内容を広く周知するとともに、生産者はもとより関係機関・団体等においては、本計画の趣旨や内容を十分に理解し、道とも連携を図りながら、それぞれの役割と責任において、積極的な取組を進めること。
- 2 特に、本道酪農・肉用牛生産が、我が国への畜産物の安定供給及び本道地域経済・社会の重要な役割を果たしていることを踏まえ、また、その太宗を担っている家族経営体が、経営規模に関わらず営農を維持・発展していけるよう、道は、スマート農業技術の活用や地域営農支援システムの充実等による作業の省力化を推進するとともに、次世代につながる人材の確保・育成を積極的に進めること。
- 3 本道酪農・肉用牛生産の更なる発展に向けて、生産者、製造事業者、販売事業者及び行政が一体となって、安全・安心で安定的な生産体制を構築するとともに、需要開拓に基軸をおいたマーケットインの発想に基づく供給体制を実現すること。
- 4 生乳の増産を目指すに当たっては、刻々と変化する需要に対して、道は、国及び酪農乳業関係者と連携を図りつつ、全国レベルにおける安定的な需給調整が行われる仕組みの構築に努めること。
- 5 道は、本計画に定めた取組の着実な実施と目標の達成に向けて、その推進状況や関係者による取組状況を把握するなど、進行管理を行い、その過程で明らかとなった課題や、社会・経済情勢の変化等を踏まえ、取組の必要な見直しや改善を行うこと。

「第10次北海道家畜改良増殖計画」に対する付帯意見（案）

北海道農業・農村振興審議会畜産部会 部会長 堂地 修

- 1 家畜の改良に当たっては、中長期的な視点で実施していく必要があることから、道は、本計画に基づき、関係機関・団体と情報交換を十分に行うとともに、互いの役割を明確にし、本道全体の共通の目標として推進していくこと。
また、道は、生産者はもとより関係機関・団体と連携を図りながら、それぞれの役割と責任において、積極的な取組を進めること。
- 2 特に、SNP情報を用いたゲノミック評価などの新技術を積極的に活用した家畜改良の加速化を図ることで、優良繁殖雌牛群の造成や優良種雄牛の作出など、経営体質の強化に寄与する家畜改良を推進すること。
- 3 道は、本計画に定めた取組の着実な実施と目標の達成に向けて、その推進状況や関係者による取組状況を把握するなど、進行管理を行い、その過程で明らかとなった課題や、社会・経済情勢の変化等を踏まえ、取組の必要な見直しや改善を行うこと。